



からしだね

2016年11月号
(521号)

キリストの受難 カトリック池田教会

共同宣教司牧：畠 基幸 神父・中村克徳 神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL : 072-751-2400 FAX : 072-753-4624 URL(ホームページ) :

http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic_ikeda/



1950年代来日前



2016.09.25一時帰国前に説教するデニス・マックワゴン神父



1990年代



1980年1月



2005年11月

本号の主な記事とその掲載ページ

巻頭言：畠基幸神父 2
「聖年の門が閉じられる前に」

デニス・マックワゴン神父が一時帰国 3, 4

大腿骨複雑骨折から回復なさったデニス神父が、9月27日に帰国されました。約2年間、ケンタッキー州レイビルにある御受難会のケアハウスに滞在して、リハビリを続けられます。

1957年の来日後、52年余にわたって池田教会や日生中央教会で主任司祭や共同宣教司牧司祭として信徒を導いてこられました。また、1966年に聖ヨゼフ児童館から発展した聖マリア幼稚園で初代園長となり、以後、半世紀

近くその職に就かれました。池田教会の第4代と第6代、第8代の主任司祭、初代の共同宣教司牧司祭を務め、現在の池田教会の礎を築かれ、「からしだね」の巻頭言を194本も執筆されました(略歴年表は3ページ)。9/25のミサの説教を聞こうとして集まった人々が一枚の集合写真に収まらなかったこと(4ページ)にデニス神父への敬愛と感謝の念の大きさがうかがえます。

松本一宏神父の遺産、模範、徳 9~11

前号に続いて、松本神父のお通夜における御受難修道会山内十束神父のお説教の要約、共同宣教司牧の中村克徳神父の追悼文と松本神父の遺言「教会の仕事をしてみよう」(2010)を集めました。

巻頭言

聖年の門が閉じられる前に

島 基之神父

もうまもなく「いつくしみの特別聖年」の門が閉じられます。この特別聖年の意義については、松本一宏神父さんの絶筆ともいえる「からしだね巻頭言(3月号)」に掲載されています。せつかくの聖年の機会を逃さずに積極的に、「巡礼して扉をくぐり、祈りを捧げてみてはいかがでしょう。」と呼びかけておられます。平易でわかりやすい言葉で、「いつくしみ」の体験を文章にしておられますが、それは、特別聖年がご自身にとってもどれほど救いになったか打ち明けてくださったことだと思います。「聖なる扉を通る時、神さまの心がいつも私たちに開かれていますことを体験します。開かれた心によって神さまは私たちと一つとなっていつも共にいてくださいます」。松本神父さん自身が何度もこの扉をくぐり神さまの広い心と一つになって神さまが共にいてくださった過越の恵みを証言されたと思います。

松本神父さんのこの巻頭言は、じっくり味わうことのできる内容のあるものです。あるシスターが翻訳した、一語では表現しつくせない、「いつくしみ」の訳文「MERCY AND COMPASSION」を取り上げて、「コンパッション、(共感・共苦)」の意味を説明されたのです。「神さまのいつくしみは、ただ相手のことを思って優しくするとか、何かを与えることに留まるのではなく、他者の思いや体験、生きている現実を自分のものとして共にすることでもあるというのが分かります」。しかし現実には、「他者の思いや体験、生きている現実を自分のものとしてともにすること」、コンパッションの意味を思い巡らして、私たちは、「どうしても自己中心になって、自分の必要を満たすことを求め、自分の視点からしか見ることができません。この世界が抱えているいろいろな苦しみを関係のないものとして考えてしまいます。…違う考えを持つ人々と一緒に歩むのは簡単ではないので、自分の目だけで世界を見て、判断して、進んで行こうとします」と自分の力や思いでは、どうすることもできない悩みを松本神父さん自身の悩みとして、私たちの側にたつて共感し、共苦しなから、解決の糸口を求めておられるのです。

「深くあわれむ」とか「深い思いやり」は、聖書ではイエス様のことばと行いを描写することばとしてできます。あるいは、善きサマリア人のたとえや放蕩息子の父親の行動を描写する特別な表現です。「深い憐れみ」を持つとは、教会の伝統的な解釈

では、自分の心「(cordis = ラテン語)」の中に敵に対する憐れみ「(misereor = ラテン語)」をもち、自分も敵も含めて人類全員が神にかたどられた型(神の似姿)であることを理解し、敵を赦すことを意味します。特別聖年の大勅書には、その言葉の意味が、「Misericordes sicut Pater(御父のようにいつくしみ深く)」とモットーとして表現され、「あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。(ルカ 6章36節)」と、私たち自身が憐れみ深い者となるように、意識的に、神の似姿に立ち返ることが聖年の目標です。そのためには、わたしたちは、神のゆるしを体験する必要があるのです。フランシスコ教皇様は、なんどもゆるしの秘跡の大切さを強調されています。ゆるしの秘跡によって、神の開かれた心にあずかり、心を広くして神と人とが一つになる道が開かれるのです。聖年の門(扉)は、神の開かれた心を象徴しています。ゆるしの秘跡をうけることによって御子の贖いに与り、御父の愛を体験するのです。こうして松本神父さんが言うように、「開かれた心によって、世界が今体験している様々な困難も喜びも同じ心で共にすることができます」。

ところで、聖年の免償は、教皇様の説明によれば、教会は聖徒の交わりの中にあり、多くの聖人たちと多くの福者たちの聖性は、弱さのあるわたしたちを助けます(大勅書p41)。「免償とは教会の聖性の体験であり、教会はすべての人をキリストのあがないがもたらした恩恵にあずからせます。そうしてゆるしは隅々まで広がり、そこに神の愛がもたらされるのです」(同p41)。したがって、門を通り、ゆるしの秘跡を受け、教皇様の決められた祈りを唱えることによって罪の赦しと免償(有限の罰の免除)をいただけるのです。

ところで、教皇様は大勅書のなかでいつくしみの業(慈善の業)について言及しています。これは、教会の愛の行為で、7つの身体的な慈善の業と7つの精神的な慈善の業があります。罪のゆるしの結果は、永遠の罰から解放され自分と神と教会(兄弟・世界)と和解します。いわば、霊的な復活ですが、復活したキリストの体に傷があったように、罪の結果の傷の痕跡は残ります。償いはこの痕跡を取り除く功德です。罪の結果生じた傷の手当は、罪の償いを果たすことによって有限の苦し(罰)か

ら解放されます。免償はこの有限の苦しみからの解放です。キリストの似姿を傷つけた自他の罪の傷に対しては、キリストの救いの業を行う実践的ないつくしみの業によって、苦しみを共に担うキリストの恵みの体験となります。また、有限の苦しみをうけている清めの状態にある死者を助けるためにこの免償を得ることも教会は伝統的に勧めてきました。このたびの聖年は、免償が与えられる巡礼への呼びかけだけを目的としたのではなく、教皇様は罪のゆるしを受ける機会を増やすことを通して、教会が持っている霊的な償いの手段、14の身体的精神的いつくしみの業をするようにとキリストの愛の実践を忘れていた私たちに呼びかけ、とりわけ、「最も小さな者の一人にしたことは、わたしにしてくれたことなのである」(マタイ25章40節)と罪の償い(正義の回復)と小さなものへの愛の実践によって教会の霊的な使命を説いたのだと私は理解しました。

特別聖年は、「教会が自らを神のことばの場とすることができるように、ゆるし、支え、愛のことばや

行いとして力強く説得力をもって響きわたるように、誰もが神のいつくしみの偉大な神秘に入れるようにすることを第一の使命として、大きな希望と大きな矛盾に満ちたこの時代にこそキリストのみ顔を観想するように、日々の生活の中で神の愛とそのいつくしみを体験するように(大勅書25項p45参照)との招きだからです。

今年11月20日王であるキリストの祭日をもって「いつくしみの特別聖年」は終わります。大阪大司教区では、11月13日午後2時から特別聖年閉年ミサが行われます。玉造教会聖マリア大聖堂の「いつくしみの門」をご一緒に通って、いつくしみの年の恵みを受けて、「私たちが真にいつくしみ深い存在となれますように(松本神父巻頭言最後の一行)」。いつくしみ深い神と共にある聖徒たち、そしてその列に加えられるように、松本神父のために免償を受け、また彼のとりなしを願いましょう。聖年の門が閉じられる前に…。

(完)

デニス・マックゴワン神父の

略歴と池田教会における大きな足跡

- | | |
|--|---|
| 1927.11 米国ミズリー州で誕生。 | 聖マリア幼稚園園長を兼務。 |
| 1955.3 米国で司祭叙階。 | 1992 Fr.カール記念館と司祭館が落成。 |
| 1957.9 来日して東京で日本語習得。 | 1995 阪神淡路大震災発生 |
| 1959.7～1962.7 池田教会助任。 | 1995.4～2003.4 池田教会第8代主任司祭。 |
| 1963～1966.5 宝塚黙想の家で黙想指導。 | 1998 池田教会は大阪教区北地区が東西に分かれた北摂地区に。 |
| 1966.4 聖ヨゼフ児童館が聖マリア幼稚園に発展し、園長に就任。 | 2003.4～2006.11 池田・日生中央教会共同宣教司牧制が始まり、その司祭。 |
| 1966.6～1972.10 池田教会第4代主任司祭。 | 2003 雲田助祭が共同宣教司牧に加わる。 |
| 1966 新聖堂献堂式。 | 2005 池田教会創立50周年誌発行・デニス神父司祭叙階金祝記念誌の発行。 |
| 1968 ミサが対面形式となる。 | 聖母子像の除幕・祝別式。信徒総会で評議会規約が大幅に改訂された。 |
| 1971 池田カトリック新聞が創刊される。 | 2006.12～2016.9 池田・日生中央教会共同宣教司牧協力司祭。 |
| 1972～1974.3 福岡黙想の家で黙想指導。 | 2007 畠基幸司祭と松本一宏司祭が共同宣教司牧に当たる。 |
| 1974.4～1988.9 池田教会第6代主任司祭。 | 2015 第7代主任司祭を務めた国井健宏司祭叙階の金祝パーティ。 |
| 1974 バスを川西市北部の信徒の送迎などに用いる。 | 2016 共同宣教司牧松本一宏司祭が帰天。 |
| 1976 Xマス・チャリティ・コンサートを始める。 | 2016.9 リハビリ治療のために一時帰国。 |
| 1979 共助組合が設立される。 | |
| 1980 池田教会創立25周年記念誌の発行・デニス神父司祭叙階銀祝パーティ。 | |
| 1983 日生中央教会献堂式。 | |
| 1988.10～1995 日生中央教会主任司祭と | |

贈られたハンチングを被って



長い司牧への感謝の念に囲まれて



右)日曜学校の生徒から
退院祝いのお花束を受ける。
左)マリア幼稚園の荒木主
任から感謝の言葉とプレゼ
ントを受ける。



デニス神父さま！祝 退院, 半世紀間のお慈しみ感謝！
再来日をお待ちします



9/25、デニス神父のお説教を聞き逃すまいと集まった300人は、一枚の写真に収まらず。

教会をリフレッシュしました

恒例の大掃除(10/2)

平和旬間集会に参加した子供たちの感想^注

ガラスのうさぎの物語は初めて読んだものだった。この物語を読んで思ったことは何より、「遠い昔のかわいそうな他人の話」にしてはいけないということだ。かつて日本で敏子のように家族をほとんど戦争で失った人は大勢いるだろうし、いまも世界に目を向ければいくらでもいる。政治的なことはよくわからないが、ややもすれば自分もそういう目にあってもおかしくないのである。「ああこんな家族が死んでいくような時代にはなってほしくないな」ではなく下手

をすればそんな世界になりかねないのだと危機感をもって平和の重要性を教会、そして社会で共有する必要があると思った。

分かち合いでは同じテーブルに戦争を小さい時に経験された方が何人かおられた。その方がたの平和への思いはとても強いものだった。わたしたち比較的若い世代と分かち合うことで、私たちの平和への思いが新たにされ、神様のお導きのもと神の国の実現に向けて歩めますように。

高校2年 K

注:からしだね 520号6ページの報告「発言の多かった平和旬間集会」の一部。

11月のガラスケースのことば
愛とは神が私達に命じられたように生きることです。
神の命令とは愛に生きることにはなりません

ヨハネ 第2の手紙・6

北摂地区中高生交流会に 池田教会から7名が参加

9月19日10:30から玉造教会で北摂8教会の中高生の交流会がありました。池田教会からは中高生5人、青年2人が参加しました。

前日まで台風の心配がありましたが、予定通り行う事ができました。最初に3人の(畠神父様、清川神父様、ダニエル神父様)神父様から『いつくしみについて』の勉強会がありました。短い時間で沢山のお話を聞いた後、いつくしみの聖なる扉をくぐり、ゆるしの秘跡を受けました。いつくしみの特別聖年の時期でもあり、玉造教会が聖なる扉が設置されている一つなので、とても貴重な経験ができ、池田教会と違う場所でのゆるしの秘跡とあって緊張したけど良かったようです。

昼食を食べ、雨が降っていたので地下ホール

でゲームをして交流を深めました。青年たちが考えてくれたゲームが人間知恵の輪(8人ぐらいで手を繋ぎ絡まった形から1つの丸い輪に戻すゲーム)やハンカチ落としなどを3人の神父様も一緒に頭を使ったり、とても沢山走り楽しく遊びました。青年たちも天気が悪かったので急遽ゲームを考え直したり、したようですが予定通り進めることができ良かったと青年たちで話をしていました。中高生だけでなく、青年たちの交流の場にもなり良かったです。

最後に松本神父様のスライド写真を見てみんなで徳ぶ時間もあって良かったです。北摂の交流会は年に2回あり、8教会の予定を合わせるの難しいですが、良い経験ができた。楽しかった。と感想をもらい良かったです。

大川



「ドレミの会」からのお願い

12月10日(土)恒例の「ドレミの会」のクリスマス会が行われます。

バザーの後で大変申し訳ありませんが、お家で眠っている、プレゼントにふさわしい小物がありましたら、ご寄付ください。

現在30名ほどのハンディーを持った方々が参加しています。年齢は小学生から、70歳代と幅広いのですが、20代、30代の方が中心です。男女は半々ぐらいです。

毎年、皆様のあたたかな応援で楽しいクリスマス会をすることができ感謝しています。カール記念館一階和室に、ダンボールを置きますので、その中に入れてください。12月10日午前中まで、受け付けます。どうぞよろしく願いいたします。

松本神父の遺産、模範、徳 特集6

「悲しむ人々は幸いである。その人たちは慰められる」

御受難修道会 山内十束司祭

松本神父様の願いは「病人として亡くなりたくない」ということでした。そのために、彼が病気であることを鉄の壁の向こう側に仕舞い込むことにしていたのですが、今はもう、その必要がないので、この数週間の松本神父様のことを話してみようと思います。

松本神父様のガンについて知ったのは4月28日でした。急いで話をしたいと連絡を受け、修道院の食堂で話を聞きました。「どうも自分はガンのようだ。しかも、ステージも相当進んでいる。」初め、彼の話の信じてできませんでした。彼が亡くなることは想像すらできなかったのです。ただ、何もしないわけにもいかなかったもので、5月の初めに入院することになりました。

ほぼ毎日、お見舞いに行きましたが、よくなる気配が見えませんでした。そこで入院して1か月後の6月7日、私は先生に「残された時間はどの位でしょうか」と尋ねました。「1か月です」という答えが返ってきました。そこで「病院に居ると、家に居るのでどの位違いますか？」と尋ねると、「同じです」という答えが返ってきました。その時、「経験も、技術もない素人が、彼の病気を支えるのは無理でしょう」と言われたのですが、「どうしても修道院に連れて帰りたい」と思いました。何人かに相談したのですが、やはり難しそうでした。しかし、どうしても諦められず、担当のケアマネジャーさん、訪問看護師さんに相談すると、「やりましょう。安心してください、私たちが病院にいるのと同じケアをしましょう。」と言ってくださったのです。

すると感情や勢いを抑えて、冷静に考えることができるようになりました。これは大事なことでした。病院にいれば、残りの日々、80点はとれるだろう。ただ、どうしても、一瞬でも100点を取らせてあげたい。どちらが彼のためになるのか、悩みました。そして「やります」という決断をしました。

しかし、現実には甘くありませんでした。帰った初日から、病院にいた方が幸せだったかと思うほどのトラブル続きでした。何をしても大騒ぎでした。松本神父様に苦勞を掛けてしまったと思います。ただ、今思い返すと、この大騒ぎこそ、病院にはない、彼の最後の時に大切なものだったと感じています。

修道院に戻ってから、彼の部屋には、いつも誰かがいました。初めこそ気を使っていたのですが、次第に前のように、大相撲の話をしたり、教会の話をしていたり、時には松本神父様とは全く関係ない話をして、彼はつまらなそうに天井を見ていたこともあったほどでした。ただ、それは普通の姿であり、また松本神父様の家の姿だったと思います。人がいて、会話があり、笑い声やおしゃべりがあって、すべてが整っているわけでないが、助け合い、分かち合っていくところでした。そこは病室だったのですが、いつの間にか「松本家のリビング」になっていったのです。

すると不思議なことに、ヘルパーさんや看護師さんたちが「この人は何者なんだろう?」「何なのだろう、ここは?」と興味を持ち始められたのでした。彼はほとんどしゃべらなかつたのですが、キリストを躪っていたでしょう。「宣教とはこういうことなのだ」と思いました。

そして、最期の時が来ました。今まで「ゼイゼイ」していた息の音が無くなり、シーンとした全くの静寂が訪れました。本当に静かでした。そして本当に悲しかった。ただその悲しみは単なる悲しみではなくて、いろんな何かが混じり合った不思議なものに包まれている感じ、「あわれみ深さ」と言うのか、そんなものを感じさせられたのです。

最後の時、100点を取れたかどうか確かではありません。ただ、少なくともお家に帰らせることはできたと思います。彼は家から天国に旅立ちました。彼が去ったのち、兄弟たちが枕元に集まってきて、祈っていました。彼は「病人としてではなく、私たちの兄弟」として、この世を去っていきました。

そして今、私たちが彼の枕元に集っています。これは松本神父様が私たちを集めたのだと思います。それは悲しみの時こそ、神に慰められる時なのだと思われに伝えるために、私たちをここに集めたのだと思います。

「悲しむ人々は幸いである。その人たちは慰められる」

福音は、今日のこの悲しみの中においても、それでもあなたがたは幸いであると語ります。福音を信じて、祈りと信仰を続けていきましょう。(完)

松本神父の遺産、模範、徳 特集7

松本神父の思い出

中村克徳司祭

松本神父様とは、東京修道院でウオード神父様が指導する青年の集いに参加したときが初対面だったと思います。まだ20歳の大学生でした。数年後、私たちは御受難会の志願者として一緒に生活を始めました。彼は一年先に上智大学で神学の勉強を進めていたため、授業の履修や試験対策などで何度も助けてもらった記憶があります。ある時には、必要な資料が私の修室のドアの前にそっと置いてあるという、さりげない助け舟を出してくれることもありました。

神学生時代の彼は、誰よりも早く起きて一番先に聖堂で祈っている人でした。三人の中では最年少者でしたが、修道生活への堅固な信念を持っていて、目標に向けて一步一步着実に進んでいく

という姿勢から学ぶことは多かったです。

助祭叙階の前後に二年ほどアメリカで英語と神学を学んだことから、国際会議のために海外に出掛ける機会も多く、アジア・オセアニア地区の御受難会メンバーからは「ポール」と親しみを込めて呼ばれていて、高い信頼を得ていました。

準管区長に選ばれてからは国内外での仕事も急増したため、松本神父様には相当な負担が掛かっていたことと思います。それにもかかわらず、日本のメンバーへの気遣いを忘れず、誰に対しても温かみのある態度を崩すことはありませんでした。松本神父様の永遠の安息を祈ると共に、彼の遺志をしっかりと引き継いでいきたいと思っています。

松本神父の遺産、模範、徳 特集8

教会の仕事をやってみる

からしだね、447号、2010.01

「どろんこぶた」という絵本をご存知でしょうか？子どもの頃、私のお気に入りの一冊でした。なぜかは分かりませんが、このお話が大好きで繰り返し読んでいました。今でも手元に置いて、ふと思い出したように眺める事があります。主人公はどろんこが大好きで、いつも柔らかいどろんこに身を沈めている一匹のこぶたです。ある日、このこぶたを飼っているおばさんが大掃除をするのですが、こぶたのどろんこまできれいにしてしまいました。それでこぶたは怒って家を出て行ってしまいます。新たなどろんこを求めて旅を続けますがなかなか見つかりません。とうとう大都会まで来たこぶたは、ようやくちょうど良さそうなどろんこを見つけて身を沈めて行きました。でも何かおかしいのです。だんだん固まっていきます。どろんこに見えたそれはセメントだったのです。当然こぶたはそこから出る事が出来ず、人がたくさん集まってきました。そこへこぶたを探しに来たおじさん、おばさんがちょうど通りかかり見つけてくれました。無事に助けられたこぶたは一緒に家に帰ります。そしておばさんはもうどろんこを掃除しないと約束しました。こぶたはうれしそうに柔らかいどろんこに沈んで行きました……。

この物語の何に魅かれたのかわかりません。自

分の大好きな場所にいつも身を置いていられるのがうらやましかったのかもしれませんが。あんな風に気持ち良さそうなものに包まれないという気持ちででしょうか。ある司教さまが以前話された事を思い出します。神さまの愛に包まれる感じは、ちょうど温泉にかかるような感じに似ている、と言うのです。体全体を何とも言えないものに包まれて、安心し、ほっとして幸せを感じるからです。多くの日本人は温泉が大好きですから神さまの愛を感じる心を自然と養っている、という話だったと思います。幼い私も、知らないうちにこの包まれることへの憧れを感じていたのかもしれませんが。

2010年がすでに1ヶ月近く過ぎてしまいましたが、新しい一年を始める時、池田教会という共同体がこの絵本のどろんこのような存在になれたらと思います。(もちろんきたない所という意味ではありません！)たくさんの方がいつも身を置いていたいと思えるような場所、という意味です。しばらく遠のいている人でもその心地よさを知っていたらいつでも戻ってくる事が出来るでしょう。そしてそのどろんこを大きくして行って、まだ知らない人をも招くように出来たら素晴らしいと思います。でも、そのようなどろんこは勝手に出来るものではないのです。ほっておいたら渴いてしまいます。誰もが入れられるように整備が必要です。心地よい、やわらかなどろんこを保つために努力がいります。

そのためにひとり一人の力が求められます。教

会ではもう長い間、信徒ひとり一人が役割を担うという事が話されてきました。実際に多くの人が積極的に関わり、惜しみない奉仕をもって働いてくださっています。一方で、自分には何も出来ないと感じることもあります。宣教というあまりに大きな使命を前にして、いったい何が出来ると言うのかと不安を感じるのは当然です。でも完全でなくてもいいのです。どのような働きであっても大きな助けとなります。ここでKen Untener司教の祈りを紹介したいと思います。彼はミシガン州の教区で司牧者として知られた司教でした。私たちの持つ小さな力の必要を教えてください、勇気を与えてくれます。

いつでも一歩さがって全体を眺めることは大切です。

神の国は私たちの努力を越えているばかりか、ビジョンをも超えています。

私たちの成し遂げられることは、神の偉大な業のほんのわずかな部分です。

完璧なことなどできません、神の国はいつも私たちを遙かに超えているからです。

どのような言葉もすべてを言い表すことはできません。

どのような祈りも信仰を完全に表してはいません。

どのような罪の告白によっても完全にはなれません。

どのような司牧的な訪問も完全ではありません。

どのようなプログラムも教会の使命を成し遂げるわけではありません。

どのような目標も目的もすべてを含んでいるわけではありません。

これこそが私たちなのです。つまり、いつの日か

成長するであろう種を蒔いているのです。

蒔かれた種に水をやり、そこに約束された未来があることを分かっています。

私たちは、さらに成長していく必要がある土台を据えます。

私たちの与える酵母は、私たちの能力をはるかに超えた効果を生み出します。

すべてをすることはできません。それが分かれば、ある種の開放感を感じるでしょう。

そして何かすることを可能にします。しかもとても良くすることを。

不完全かもしれない。しかし、始まりであって、長い道のりの最初の一步です。

あとの残りは、主の恵みが働くための機会となるでしょう。

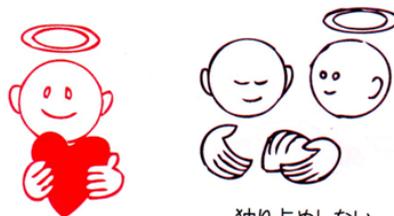
結果をけつて見ないかもしれません。

しかし、それは建築家と働き手の違いです。

私たちは働き手であって建築家ではなく、司牧する者であって救い主ではありません。

私たちは未来、それも私たち自身のものではない未来の預言者なのです。

たくさんの方が心地よく身を浸す事のできるごろんことして私たちの共同体が成長出来るよう、それぞれの賜物を差し出していきましょう。(完)



…人情味あふれる

…独り占めしない

仲恒子さんのこと

小金井教会 坂野

仲さんが初めてからしだねの編集後記を書かれたのは、2007年の4月号だったそうです(広報の山本さんに調べていただきました)。確か、信徒使徒職のパンフレットをからしだねに転載するにあたり、原稿の入力を引き受けてくださった方だと紹介されたのが、仲さんでした。毎月の編集にも参加され、食いしん坊の私は、仲さんの手作りのお菓子を楽

しみにするようになりました。

その内に、日曜日のミサに出ているだけではわからないような教会内の出来事や行事予定など、からしだねに掲載した方が良いと思われる原稿が、仲さんのところに、どんどん集まるようになりました。からしだねの入カミス(複数で何度もチェックしても無くならない…)については、私であれば翌月号のお詫びで済ませてしまうところ、仲さんは、当時は250部、1つ1つにテープを貼って修正されていました。そして遂には、パブリッシャーというちょっと癖

のあるソフトウェアを使って編集もされるようになりました。入力するスピードが遅いからと、最初は遠慮されていましたが、複数のパソコンを使って編集するようになっていたので、複数での編集は大いに助けになりました。教会では見逃しが多いからと、家に持ち帰っての校正、最後の砦として、印刷屋さんへの修正依頼。からしだね発行直後の日曜日には、聖堂入口で手渡ししていました。今、こうして思い返してみると、編集の最初から最後まで、仲さんがおられたからこそ出来たことが沢山あったのだと、改めて気付かされました。そして、2013年の春頃、「もう広報の仕事が出来なくなった」と、からしだねを卒業されました。病気の事は何もおっしゃらなかったで、半年ぐらいたってから、「もう家に帰ることはないと思ったから、全部、人にあげちゃったので、何にもないのよ～」と明るく言われて、驚きました。

この文章の最初に、仲さんの広報での仕事ぶりをたくさん書きましたが、それらは池田教会での仲さんの働きの、ごくごく一部だと思います。書記をされていた時の多忙な日々、洗礼台帳の電子データ化、英会話のクラスのためにデニス神父様が焼かれるターキーの下準備、ドレミの会の男性陣のお菓子の先生、病気の方のお世話、もみじ祭りのお茶席のチケット作成など、挙げていたらきりがありません。そういう忙しい中でも、広報の編集会議には、必ず来てくださいました。何でも丁寧に完璧になさる仲さんには、手抜きという言葉がないのでしょう。また、ご自分の事を「おせっかいおばさん」とよく言っておられましたが、自分の事はいつも後回しで、通勤されているかのように教会に通って、周りの人たちのために働いておられました。

仲さんからの最後のメールには、からしだね2014年10月号で紹介した「最上のわざ」という詩について書いてありました。

最上のわざ 私にとって、とても素晴らしい言葉です。

今、病気と闘い(まじめに闘っていないのですが・・・^0^;) 私がなすべきはこの言葉のとおりでしょうね。

“来よ、わが友よ、われなんじを見捨てじ” の言葉を楽しみにします。

さあ、その日まで青森にも行きたいし、息子のところにも行きたい!

まじめに主婦もしましょう

3年半の長い闘病生活の中、ご家族と1日1日

を大切に過ごされました。青森にも旅行されました。私も何度もお会いすることが出来ました。苦しいことも多かったと思いますが、最初の余命宣告通りに逝ってしまわれていたら、残された者の悲しみはもっともつと深かったのではないかと思います。

9月29日、デニス神父様が帰国された週の木曜日の夕方、安心されたかのように仲さんは帰天されました。週の後半だったので、私も池田教会で最期のお別れをする事が出来ました。最後の最後まで、仲さんらしい優しい心配りをされたのだと感じました。(完)

黙想会のお知らせ 宝塚黙想の家から

■ 日帰り黙想会

11月17日(木) 10:00 ~ 15:30

指導: 山内十束神父

11月18日(金) 10:00 ~ 15:30

指導: 山内十束神父



■ 週末黙想会

11月19日(土) 17:00 ~ 20日(日) 15:30

指導: 山内十束神父

各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。☎0797(84)3111

編集後記

みなさんすでにご存知のように9月にマザーテレサがバチカンで聖人の列に上げられました。聖人になるなんて普通の人にはできないすごいことだと思います。

最近偶然に「あなたも聖人に招かれています一聖人になるための秘訣とは」という題の小冊子を手に入れました。たった24ページの手のひらに乗るぐらいの小さい本ですが聖人になるための秘訣が各ページに可愛いイラストとともに書かれています。すでにお気づきの方がいらっしゃるかもしれませんが、からしだね10月号に最初の1ページを載せています。今月号はどうでしょうか? 探して見て下さい。これを読むとなんだか私たちにも出よう来そうです。今からでも遅くありません。皆で聖人を目指しませんか?

とんとんみー